

## 移動が価値を創る — 瀬戸内多島海における統合型交通モデルの検討

所属：つばめ交通株式会社、氏名：山内康平

<https://www.tsubame.co.jp/>、[kouhei@tsubame.co.jp](mailto:kouhei@tsubame.co.jp)

### はじめに

つばめ交通株式会社は 1951 年、広島市東区牛田において創業した。未だ戦争の傷跡が色濃く残る復興期の広島において、創業者山内晟は「人々の移動を止めてはならない」との信念のもと、24 時間 365 日の運行体制を志向し事業を開始した。創業以来、タクシーの行灯の灯りを絶やすことなく地域の移動を支え続けてきたことは、当社の事業理念そのものである。

現代は社会構造の転換期にあり、移動の概念そのものが変化している。このような状況の中で、当社は事業領域を「移動に関わる総合サービス」へと拡張し、「移動で人や社会を幸せに」をモットーに陸上交通のみならず海上交通の提供にも取り組んでいる。

本稿では、広島における海上交通の現状を整理するとともに、瀬戸内海の地理的特性と観光需要の関係を踏まえながら、つばめ交通が果たし得る役割について考察する。

### 1. 広島における海上交通の概要

広島は瀬戸内海に面し、多数の島嶼を有する地域構造から、古くより海上交通が生活および経済活動を支える基盤として機能してきた。現在もフェリーや高速船による定期航路は、島嶼部住民の生活交通として不可欠であると同時に、観光アクセスとして重要な役割を担っている。

近年では従来の定期航路に加え、観光クルーズや貸切輸送等の不定期航路が拡大し、海上交通は単なる移動手段から体験価値を伴うサービスへと変化している。この変化は、瀬戸内地域における観光戦略およびナイトタイムエコノミーの推進と密接に関係している。

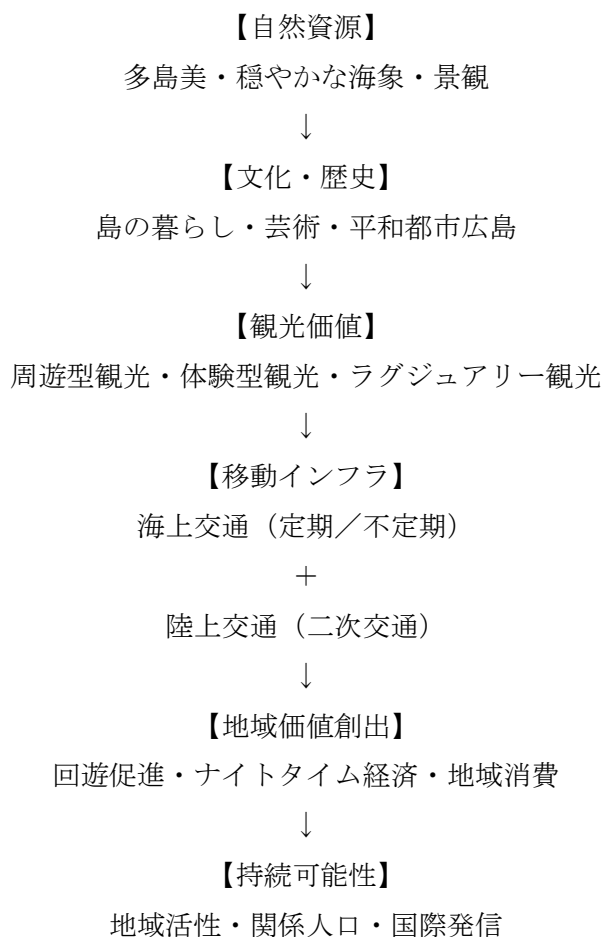
### 2. 世界有数の多島海としての瀬戸内海と観光需要

瀬戸内海は数多くの島々が点在する「多島海 (archipelagic seascape)」として世界的に評価されており、その景観的価値は国際的にも希少性の高いものとされている。穏やかな海象条件と複雑な海岸線が織りなす景観は、移動そのものを体験へと転換させる特性を有している。

この多島海景観は単なる自然資源にとどまらず、文化、歴史、生活が重層的に存在する空間として形成されており、瀬戸内地域は「移動しながら価値を発見する観光圏」としての性格を持つ。すなわち、目的地志向型観光から周遊・体験型観光への転換を象徴する地域であるといえる。

近年、世界的にスローツーリズムや体験型観光への関心が高まる中で、瀬戸内海はラグジュアリー観光や文化観光のフィールドとして注目を集めている。島嶼間を結ぶ海上交通は単なるアクセス手段ではなく、景観体験、地域交流、文化理解を促進する装置として機能し始めている。

特に小型船や不定期航路による柔軟な移動は、多島海の魅力を最大限に引き出す手段であり、ナイトタイム観光、島ホッピング、プレミアムツアー等の新たな観光需要を創出している。瀬戸内海における海上交通は、世界有数の多島景観を活かした価値創出型インフラとして、今後さらに重要性を増すと考えられる。



え入れる私たちの使命は、一人でも多くの人に広島を好きになっていただくことと考えている。広島は世界平和の原点とも言うべき場所であり、その歴史と復興の歩みは世界に対して大きな意味を持つ。

人類史上初めて原子爆弾が投下されたこの地では、多くの尊い命が失われた。しかし広島の人々は黙々と努力を重ね、美しい街を再生させてきた。その背景には、平和を願う強い意志と他者を思いやる心がある。

私たちは移動サービスを通じて広島の魅力や人の温かさを伝え、訪れた人々にこの街を好きになっていただくことが、ひいては世界平和への貢献につながると信じている。

### 3. つばめ交通の役割

当社は長年にわたり地域の陸上交通を担ってきた経験を基盤に、移動サービスを統合的に提供する事業モデルの構築を目指している。特にタクシーと海上交通を組み合わせた二次交通の整備は、観光客の移動利便性向上のみならず、地域回遊性の向上にも寄与する可能性を有する。

また、不定期航路を活用した観光商品やイベント輸送は、地域経済の活性化およびナイトタイムエコノミーの形成に資するものである。陸と海を接続する移動サービスの担い手として、当社が果たす役割は今後さらに拡大していくものと考えられる。

### おわりに

— 1人でも多くの人に広島を好きになっていただくために —

広島の地で県外および海外からの来訪者を迎